

ホルモンの影響、定量凝集反応、各種動物の精子との凝集性、凍結融解後の上清及び沈渣の凝集性、標準大腸菌の精子凝集性、分離凝集菌株 (*E. coli*) の抗原構造の検討、0.5%ホルマリン、アルコール加菌液との関係などについて検討した。その後さらに凝集塊の菌と精子との関係、凝集株免疫血清の凝集性に及ぼす影響、腔内大腸菌の定着性、及び腔脂膏中の生菌数などについても検討した。なお凝集株の一部の菌については、電子顕微鏡による観察も行った。

以上のことよりつぎのことを知りえた。

- 1) *E. coli* の特殊な菌に著明な精子凝集性がある。
- 2) 凝集作用の本態は菌体成分と密接なる関係があることが推定されるが、とくにO, H, K抗原と特殊な関係は認められない。
- 3) その凝集性は種々な物理化学的條件によつて影響される。
- 4) 凝集性 *E. coli* は糞便中に少く、膀胱炎患者尿から分離した菌株に非常に多い。このことは病原性と何らかの関係があるのではないと思われる。それゆえに腔内にかゝる精子凝集性大腸菌の存在することは、病原的意義があると考えられる。
- 5) また人精子と動物の精子とは凝集株が異なることと、人精子に対する凝集態度が2つに分けられることより、この凝集反応は大腸菌の分類に使用しうる可能性があると思われる。
- 6) 現在までの実験的並びに臨牀的観察よりして、凝集性のない大腸菌も腔内に長期間定着する場合には、凝集性を腔内で獲得しうるのではないと思われる。
- 7) 定量凝集反応、腔脂膏中の生菌数、大腸菌の腔内定着性などより、さらに大腸菌は不妊婦人の約15%にみとめられることより、不妊の原因となりうる場合があると考えられる。

### 63. 人精子の變態と變性について

(日本鋼管鶴見) 安武豊志男

不妊原因を両性について追究するに男性缺陷の頻度が意外に高率であることが注目される。男性側検査の必須対象である精液については一應の基本的検査術式と常態基準が設けられているが、実際にその検査、診断を行うに當つては種々の疑問に逢着せざるをえない。

この立場から今回は主として精液所見より、精子の形態的所見を追求して、いささか新知見をえたので報告する。

検査対象は不妊夫婦の夫、健康にして多兒なる男子、

及び健康多兒にして精管結紮を行つた男子を含む總數約50例の精液並びに一部には精巢の生體組織診を加えたものである。染色法はハリス氏ヘマトキシリン エオジン重染色、Keaty-Hambleu 氏染色、Papanicolou 氏染色、Cresylviolet, Neutralrot, Sudan III, Feulgen 氏染色をなし、また別にエオジン糖液、エオジンニグロシン染色による生死鑑別法を行った。

#### ① 變態期における精子形成の動態

細胞質の離脱につきの形成が認められる。

A. 下降性離脱 B. 前方性離脱 C. 頸中間部で變性崩壊するもの D. 中間部で振落されるもの E. 頭部で崩壊四散するもの。

② 従来奇型精子として算入されてきたものに分化現象の一過程を示すものが多い(異型精子)。

③ 異常精液には精細胞細胞質の膠質性變化による崩壊分離體が多く出現する。

④ 變性精子は核質漏出型(空胞形成、空胞脱出)、核濃縮型、染色質融解型、染色質增多型に分類せられる。その變性過程を細胞學的に逐次分類した。

⑤ さらに試験管内で實驗的に温度、pH、滲透壓などの可變環境における變性機序につき追究し、従來の死精子、老熟精子の概念につき補正した。

⑥ 叙上の成績を自らの Spermocytogramm に總括することにより、従來の Spermogram に替る有力な検査項目であることを認めた。

### 64. 子宮後傾屈症の臨牀的意義の再検討

(國立相模原) \*五十嵐正雄, 中原芳子,  
松尾良治

子宮後傾屈症(後轉症)は極めて多い子宮位置異常である。かつて「不妊や腰痛、及びその他の所謂後屈症を訴える婦人の子宮後傾屈症は必ず矯正しなければならぬ」とされた時代もあつたが、今日この學説をそのまま遵守する婦人科醫は少いと思われる。しかし子宮後傾屈症の手術は本邦でも歐米でも現在なおかなり廣く行われているようである。子宮後轉症は果してどの程度の臨牀的意義を有するであろうか。この問題は臨牀的に極めて重大であり、従つて従來幾多の研究が報告されているが、「患者の訴える症狀が他の原因なしに子宮後轉症により惹起されたものである」か否かを決定しうる臨牀検査法は歐米でも本邦でも未だ報告されていない。事實子宮後轉症を手術的に治療しても以前の症狀が消失しなかつたり、依然として妊娠しないことも少なくない。従つて子宮後轉症を治療すべきか否かという治療方針の決定に

臨牀醫は迷わざるをえない現状である。

演者は各症例について子宮後轉症が不妊原因になつているか否かを推測出来る臨牀検査法を考案した。こゝにこの検査法を紹介するとともに、子宮後轉症のもつ意義を不妊、腰痛、月経異常、流早産の各症状別に検討し、他方「子宮後轉症が肝障害の原因となる」という Louros (1952) や、Triantafillopoulos (1954) の最近の學説を再検討した結果についても報告したい。

〔上記検査法の概要〕

1) 子宮後傾屈症及び後傾症のある不妊婦人に基礎体温測定と頸管粘液検査を行い、豫測される排卵期に、Sims-Hühner Test を行う。

2) 同時に頸管粘液の量、性状、結晶形成現象をしらべる。

3) 頸管粘液中に相當数の運動精子を認めた時には子宮後傾屈症は不妊原因になりえないと判定する。

4) Sims-Hühner Test の成績が不良であり、しかも頸管粘液の量、性状、結晶形成度が正常の排卵期像を示す場合には、配偶者の精液検査を行う。この精液検査の結果も正常の時始めて子宮後傾屈症が不妊の一因になっていることが推測される。

### 65. 不妊症手術の意義について

(福岡日赤) 八郷速雄

われわれ産婦人科における最も興味ある夢は、「人間が自分の欲する性の子供を産めないか？」という問題であります。幸か不幸か神の攝理によつて、自然の妙味は男女平等数を保つていて、科學の限界もそこらにあるもの様であります。ただ男の子のみあるいは女の子のみで、反對の性の子が欲しい人は、4人目は大概成功するようで、3人目は同性が多いから中絶したが良い様と思います。

他の1つは不妊症の問題であります。昔から「嫁して3年子なきは去る」といわれて、幾多の不幸を罪のない不妊婦人と家族にもたらしたのであります。不妊婦人に子供の産めるようにするのは、不確實で氣の長い仕事ではあるが非常に有意義なことでもあります。

私は昭和27年から、福岡赤十字病院において、主として手術療法を試み、今日に至つておりますが、その間、幾多の成功例を経験し、中には奇蹟に近い神祕な卵管の再生能力を見たので、それらを報告致します。

まず卵管開口術であります。不妊で炎症のある場合一應手術を試みるべきであります。たとえ炎症が高度で癒着のひどいものでも、卵管の少しでも残されるもの

は、残すべきだと思います。時には手術しながら、これでは全然駄目だと思える症例で、その後2年位の中に、奇蹟的に受胎するのがあります。故に未婚既婚を問わず、将来妊娠の必要ある婦人の卵管手術は、剔除よりも出来るだけ卵管開口を実施すべきであると思います。

その他後屈だけの場合も、ラバアレキサンダー氏手術を実施し、退院時に頸管擴張、刺戟搔爬をして帰せば、妊娠する場合が非常に多いのですが、たとえ卵管造影で通過していても、ホルモン療法、その他の方法で妊娠しない場合は男子側に異常のない限り一應開腹して、卵管の状態や子宮の位置などを實際に確めて修理すれば、妊娠の可能性が出来る、實際に妊娠するのがありました。

昭和30年までの不妊症手術例 122, そのうちに、結核性14例を見ました。卵管開口術その他 100例、ラバアレキサンダー氏手術22例、妊娠成功例12例。昭和31年度手術例52例、卵管開口術その他43例、ラバアレキサンダー氏手術9例、妊娠成功例2例。妊娠成功例中6人分娩し4人は女兒でありました。その他順調に経過し目下観察中ではありますが1例だけ強度の悪阻で中絶し、その後2年未だに不妊であります。

最後に卵管結核の問題ですが、開口してもなかなか妊娠しないので、不可能ではないかと思ひますが、手術後卵管の病状は軽快します。1例だけ卵管結核の手術後1度だけ月経がなくて、子宮も妊娠の様な状態となり、終に奇蹟が起つたかと喜びましたが不成功に終わりました。

結核婦人の妊娠は状況の許す限り早く分娩を試み、全身療法及び手術により卵管結核の豫防が必要であります。

### 66. 純系及び雑系マウスにおいて環境と飼料の性周期に及ぼす影響

(慶大) 坂倉啓夫, \*梅内正利

マウスはわれわれの實驗において良く使用される動物であるが、その結果の判定に腔脂膏をもつてすることも多い。この際單に飼育の條件によつて、すでにその性周期に種々の變化が起つてることがしばしば見られる。そこで環境と飼料がその性周期に如何なる影響を與えるかを試み、さらに種によつて相違がどう表われるかを種々な組合せにおいて検討した。

マウスは實驗動物中央研究所の純系 S. M 系, ddN 系と、對照として雑系を用い、飼料は同研究所の完全飼料である CE—2 大型同型飼料を1匹當り平均1日5gを與え、他方には大麥に重量當り20%の魚粉を加えた低蛋白、低カロリーの不完全飼料を1匹當り平均10gをそ